

化学療法計画書

ID					
氏名					
生年 月日					
実施部署			発行日		
身長 (cm)	160	体重 (kg)	50	体表面積 (m ²)	1.50

指示医師:			
指導医師:			
投与開始予定日:	年	月	日
投与終了日:	年	月	日

病名	悪性リンパ腫
治療法	ジフォルタ単独療法

	1
抗癌剤・商品名	ジフォルタ
規格	20mg
一般名	プラトレキサート
一日投与量(規定)	30mg/m ²
患者情報から算出した 一日投与量	45.03 mg
実際の投与量	45 mg
	30 mg/m ²
投与日	day1,8,15,22,29,36
1クール期間	49日間
予定クール数	
検査スケジュール	原則的に投与日に化学療法施行前セット 検査データに応じて臨時に検査実施

適応基準	再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫
推奨 経口剤	○このレジメンは軽度催吐性リスク群です。推奨される経口制吐剤はありません。
禁忌	1.本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.妊婦又は妊娠している可能性のある女性
中止基準	投与前の好中球数:1000/mm ³ 未満、血小板数:100,000/mm ³ 未満(初回投与時)、50,000/mm ³ 未満(2回目投与時以降) 骨髓機能が回復するまでは投与延期(添付文書内の基準に準拠)
副作用	●ジフォルタ 重大 1.口内炎 2.骨髓抑制 3.感染症 4.重度の皮膚障害 5.腫瘍崩壊症候群 6.間質性肺疾患 その他 (10%以上)鼻出血、悪心、嘔吐、下痢、便秘、ALT増加、AST増加、末梢性浮腫、発熱、疲労 (5~10%未満)頭痛、咽喉頭疼痛、咳嗽、呼吸困難、上腹部痛、四肢痛、食欲減退、低カリウム血症、体重減少、粘膜の炎症 (5%未満)味覚異常、不眠症、錯感覚、浮動性めまい、うつ病、感覚鈍麻、末梢性ニューロパチー、蟻走感、記憶障害、 神経痛、末梢性感覚ニューロパチー、感覚消失、失神、不安、激越、錯乱状態、妄想、リンパ節痛、脾腫、 好酸球増加症、白血球数増加、頻脈、心肺停止、心拡大、駆出率減少、低血圧、頸静脈血栓症、 鎖骨下静脈血栓症、血圧上昇、発声障害、咽頭の炎症、咽喉乾燥、胸水、湿性咳嗽、しゃっくり、低酸素症、 肺硬化、鼻閉、胸膜痛、肺うっ血、肺塞栓症、逆流性喉頭炎、鼻漏、頻呼吸、咽喉絞扼感、鼻の炎症、上気道の炎症、 口腔内痛、胃食道逆流性疾患、腹部不快感、口唇炎、肛門の炎症、口の感覚鈍麻、腹痛、口渇、消化不良、痔核、 鼓腸、胃炎、食道炎、口唇症、口唇乾燥、嚥下障害、歯肉浮腫、歯肉痛、痔出血、口唇障害、口唇痛、口唇潰瘍、 嚥下痛、食道痛、口腔障害、口腔粘膜紅斑、肺炎、口の錯感覚、肛門周囲紅斑、直腸出血、舌変色、歯痛、 早期満腹、腹部膨満、口角口唇炎、心窩部不快感、軟便、齲歯、眼刺激、眼充血、流涙増加、結膜充血、霧視、 結膜炎、眼乾燥、眼瞼紅斑、眼そう痒症、眼瞼浮腫、眼瞼下垂、眼瞼そう痒症、光視症、強膜充血、ぶどう膜炎、 視力低下、耳鳴、難聴、聴力低下、回転性めまい、筋痙攣、筋肉痛、背部痛、関節痛、筋骨格痛、頸部痛、肋軟骨炎、 関節硬直、関節腫脹、筋骨格系胸痛、筋骨格不快感、筋骨格硬直、肉離れ、腎不全、排尿躊躇、血中クレアチン増加、 頻尿、腎機能障害、血中クレアチニン増加、亀頭包皮炎、性器発疹、性器潰瘍形成、外陰腔そう痒症、包茎、精巣痛、 低マグネシウム血症、高カリウム血症、高尿酸血症、脱水、低リン酸血症、細胞死、高カルシウム血症、高血糖、 低血糖、血中尿酸増加、血中カリウム減少、血中ブドウ糖増加、血中リン増加、体重増加、低アルブミン血症、 高ビリルビン血症、胆管炎、肝脾腫大、血中ビリルビン増加、肝機能検査異常、血中アルカリホスファターゼ増加、 血中乳酸脱水素酵素増加、γ-グルタミルトランスフェラーゼ増加、肝機能検査値上昇、注入に伴う反応、 注射部位反応、無力症、顔面浮腫、寝汗、疼痛、腋窩痛、悪寒、インフルエンザ様疾患、限局性浮腫、局所腫脹、 粘膜乾燥、挫傷、擦過傷、胸痛、肛門性器痔瘻、倦怠感、浮腫、湿疹
備考	○初回投与10日以上前より下記の薬剤を投与すること ・パンビタン末 2g/日の連日経口投与(最終投与日から30日後まで継続) ・メチコパール注 2A 筋注 8~10週ごと ○口内炎等の副作用軽減目的に下記投与を考慮すること ・ホリナート錠5mg 20錠 分4 8時間毎(ジフォルタ投与後24時間目より開始し、6回投与する) ※ホリナート錠を使用する場合はパンビタン末、メチコパール注はジフォルタ初回投与7日以上前にすることができる。

ジフォルタ単独療法 観察記録

所要時間:約1時間

氏名: ID() 年齢: (才)

施行日		クール	回目	施行前内服薬()		入外()		
医師	指示医師: ジフォルタ (mg) 一般名(プララトレキサート)			抗癌剤用量 計画書設定量 計画書設定量より減量 計画書設定量より増量 減量・増量理由		抗がん剤以外の 薬剤の変更・追加		
	☐ 投与決定 ☐ 未決定 ☐ 延期・中止							
投与指示	本体		側管			投与 開始時間	調剤	実施
	生食100mL				1時間かけて点滴【100mL/h】			
	生食100mL + グラニセトロン1A + デカドロン 2 A				30分かけ点滴【200mL/h】			
	生食50mL + ジフォルタ				全開で投与(3～5分かけて)			
	本体終了後抜去							